

修身初訓 八

紀念
年 宋 王 奇 贈
民國 年 月 日

社會科 第四
級 上 部
校長 修身
25137
9 78
372 /

T 1A1
22
M1 77

修身初訓卷之八

緒言

此卷ハ中等科第五年後期生徒ニ授ル所ナリ、篇ヲ分チテ尊王、各國交際、愛物、愛日、攝生、治産、立身、學問、租稅、倫常ノ十章トス、前篇ニ比スルニ頗ル多シ、且題目重複スルモノハ、其文意稍ク高深ニ進メリ

明治十五年

編者識

修身初訓卷之八

宗 盛年編輯
宮本茂任校閱

第一章 尊王

○孔子曰ク天ニ二日ナク、民ニ二王ナシ、
詩ニ曰ク普天ノ下、王土ニアラサルモノナシ、率土
ノ濱王臣ニアラサルモノナシ、
○書ニ云ク天下民ヲ降シ、之カ君ヲ作シ、之カ師ヲ
作ス、惟其上帝ヲ相クト曰テ、之ヲ四方ニ寵ス、罪ヲ
ル罪ナキ、惟我アリ、天下曷ソ敢テ厥志ヲ越スヤ

ランヤ

○我邦天皇ノ尊キ、万世自若タリ、大陽ノ天ニ懸ル
カ如シ、艸野卑賤ノ臣、又何ソ敢テ論セン、然レ臣幸
ニ神明ノ域ニ生レ、世々煦育ノ恩ニ浴ス、亦豈其原
ツク所ヲ知ラサル可シヤ、天孫ノ下地ニ降臨スル
天祖賜フニ三種ノ神器ヲ以テス、曰ク玉、曰ク鏡、曰
ク劔、因テ敕シテ曰ク、葦原千五百之瑞穗ノ國、是吾
子孫王タル地、汝皇孫就テ治ムベシ、行ケ寶詐ノ隆
ナル、當ニ天壤ト、モニ窮ナカルベシ、弘道館述義
○楠正成ハ、河内ノ人、左大臣諸兄ノ裔ナリ、世々金

日下加秋字

剛山ノ西ニ居ル、元弘元年、後醍醐天皇、北條高時ノ
兵ヲ避ケ、笠置寺ニ幸ス、時ニ四方勤王ノ者少シ、帝
頗ル之ヲ憂フ、夢兆ヲ以テ正成ヲ召シ、詔シテ討セ
シム、正成詔ヲ奉シテ歸リ、赤坂ニ城、久方ニ町許リ
守者僅ニ五百人、民儲ヲ取テ兵食ニ充ツ、版築方ニ
畢リテ、賊將大佛貞直等、笠置ヲ攻陷レ、勢ニ乘シテ
奄ニ至ル、兵凡テ三十萬、賊城ノ小ナルヲ視テ、急ニ
薄リ之ヲ攻ム、正成計ヲ以テ、數々之ヲ破ル、賊遂ニ
柵ヲ營シ、久ヲ持シテ之ヲ困シム、正成佯死シテ逃
亡シ、金剛山ニ匿ル、賊以テ真トシ、兵ヲ引テ還ル、

淺定佛ヲシテ赤坂ヲ守ラシム、幾モナクシテ、正成
又赤坂ヲ襲ヒ、定佛ヲ下シ、其兵ヲ并セ、和泉河内ヲ
徇フ、京畿大ニ震フ、尋テ千劍破城ヲ築キテ之ニ據
ル、既ニシテ賊軍護良親王ヲ吉野ニ陷レ、悉ク之ニ
萃リ、攻撃甚疾シ、正成機ニ應シテ之ヲ拒キ、殺傷過
當ナリ、時ニ帝、伯耆ニ幸シ、諸將六波羅ニ克ツニ會
ス、賊軍皆圍ヲ解キテ去リ、車駕關ニ還ル、正成兵庫
ニ迎謁ス、帝親ラ之ヲ勞シテ曰ク、今日ノ事實ニ汝
ノ力ナリ、正成拜謝ス、後足利尊氏叛スルニ及ンテ、
亦謀ヲ以テ之ヲ走ラシムルヲ數タヒ、建武二年、遂

ニ攝津ノ湊川ニ戰死ス、時年四十三、帝追悼已マズ、
正三位左近衛中將ヲ贈リ給フ、其子正行、正時、正儀、
各父ノ志ヲ繼キ、能ク南朝ノ干城タルモノ數世、其
子孫至テモ、亦家聲ヲ隕サス、後二百餘年、權中納言
源光國、私ニ石ヲ湊川ニ立テ、題シテ嗚呼忠臣楠氏
ノ墓ト曰フ、

○諸葛亮字ハ孔明、琅邪郡陽都縣ノ農夫ナリ、性穎
達聰敏、博學ニシテ通セサル所ナシ、而シテ最兵略
ニ長ス、常ニ自ラ管仲、樂毅ニ比ス、時ニ天下騷亂、英
雄割據シテ、漢室衰替無キカ如シ、涿郡ノ劉備之ヲ

嘆シ兵ヲ舉ケテ新野ニ屯シ命世ノ良弼ヲ得テ旧業ヲ恢復セント欲シ、隱士司馬徽ノ家ニ詣リ、當今ノ事務ヲ訪フ、司馬徽曰久時務ヲ識ルハ俊傑ニアリ、此ノ間ニ、諸葛孔明ト云フ者アリ、將軍宜ク之ト謀ルヘシト、劉備是ニ於テ、諸葛亮ノ廬ニ詣ル、凡三タヒニシテ見ルヲ得タリ、漢室ヲ恢復シ、姦臣ヲ誅除スル策ヲ問フ、孔明其義ニ感シ、出テ、劉備ニ事ヘ、純德忠誠ヲ以テ之ヲ輔翼シ、漢中ヲ定メ、巴蜀ヲ取ル、魏王曹丕、漢帝ヲ廢シ位ヲ篡フニ及テ、劉備ヲ勸メテ、帝位ニ即カシム、劉備乃孔明ヲ以テ丞相

トナシ、内外ノ政務ヲ悉之ニ倚賴ス、劉備歿スルニ及ヒ、其子劉禪ヲ助ケテ、屢魏ト戰フ、殊功未タ就ラスシテ、遂ニ五丈原ニ病歿セリ、時二年五十四

第二章 交際

○生人ノ初、萬物ト皆生ス、草木榛々、鹿豕狂々、人ハ搏噬スルヲ能ハス、且羽毛ナシ、克貞奉シ、自衛ルヲナシ、荀卿言ルヲアリ、必將ニ物ニ假テ、以テ用ヲ為ントスルモノナリ、夫物ニ假モノハ、必爭フ、爭フテ已マスンハ、必其能曲直ヲ断スル者ニ就テ命ヲ聽ク、其智ニシテ明ナル者ハ、伏スル所必衆シ、之ニ告

ルニ直ヲ以テシテ改メス、必之ヲ痛クシテ後畏ル、
是ニ由テ君長刑政生ス、故ニ近モノ聚テ羣ヲナス、
羣ノ分ル、其爭必大ナリ、大ニシテ而後兵アリ、徳
アリ、又大ナル者アリ、衆羣ノ長就テ命ヲ聽、以テ其
屬ヲ安ス、封建論

○孟子曰久、天下道アレハ、小徳ハ大徳ニ役セラレ、
小賢ハ大賢ニ役セラル、天下道ナケレハ、小ハ大ニ
役セラレ、弱ハ強ニ役セラル、斯ニツノ者ハ、天ナリ、
天ニ順フモノハ存シ、天ニ逆フモノハ止ス、齊景公
既ニ令スルヲ能ハス、又命ヲ受ケスシハ、是レ物ヲ

絶ツナリト云ヒ、涕ヲ出シテ呉ニ女セリ、

○戰國ノ時、齊王建ノ母、君王后賢ナリ、秦ニ事フル
ヲ謹ミ、諸侯ト相交リテ、信義ヲ失ハス、國中無事ナ
ルモノ久シ、君王后卒シテ、齊ノ客多ク秦ノ金ヲ受
ケ、タメニ反間シ、王ヲ勸メテ秦ニ朝セシメ、攻戰ノ
備ヲ修メス、楚、燕、趙、魏、韓ノ五國ニ力ヲ合セテ、秦ヲ
攻メス、秦王政既ニ五國ヲ滅シテ、兵臨淄ニ入ル、王
建遂ニ降ス、秦ユレヲ共邑ニ遷シ、之ヲ松柏間ニ處キ
テ死セシム、齊ヲ以テ郡トス

○春秋ノ時、晉、楚各盟主タランヲ爭フ、鄭小國ニ

シテ其間ニ在リ歳トシテ二國ノ兵ヲ被ラサルヲ
ナシ然レ臣子産之ヲ受ルニ礼ト信トヲ以テ自ラ
固フス晋楚ノ暴ト雖モ加ルヲ能ハス今其大畧ヲ
舉ケテ之ヲ言ハン晋ノ范宣子政ヲ為シ諸侯ノ聘
幣ヲ重クス子産コレニ書ヲ贈テ曰ク諸侯ノ賄公
室ニ聚レハ則諸侯貳ス諸侯貳セハ晋國壞レシ宣
子悦ビ幣ヲ輕クス鄭陳ヲ伐チ其捷ヲ獻スルニ晋
人陳ノ罪ヲ問ヘハ胡公以後歷世ノ事ヲ引テコレ
ニ答フ晋人詰責スルヲ能ハス子産ノ鄭伯ヲ相々
テ晋ニ朝スルヤ晋公會ノ喪ヲ以テ之ヲ見サトヘ

客館ノ垣ヲ壞テ車馬ヲ納ル晋人コレヲ責ム乃晋
ノ文公ノ故事ヲ陳ヘテ之ニ告ク晋人遂ニ不敏ヲ
謝ス平丘ノ會貢賦ノ輕重ヲ爭ヒ日中ヨリ昏ニ至
ル晋人コレヲ許ス晋ノ韓宣子玉環ヲ鄭ノ商人ニ
求ントシテ之ヲ鄭伯ニ請フ子産アタヘスシテ曰
ク官府ノ守器ニ非ス知ラサルナリ宣子コレヲ辭
ス凡ソ此レ交際スルニ礼義忠信ヲ失ハサルヲ以
テ大國ト雖モ加ルヲ能ハサルナリ

○陸抗字ハ幼節吳ノ將タリ時ニ晋ノ平南將軍羊
祜南夏ヲ鎮ス石城以西盡ク晋ノ有トナル祜増々

徳信ヲ修ム、以テ初附ヲ懷ク、枯抗ト界ヲ相接ス、使
命交モ通ス、抗嘗テ病ム、枯コレニ藥ヲ遺ル、抗之ヲ
服シテ疑心ナシ、人多ク抗ヲ諫ム、抗曰、羊枯豈人ヲ
酖スル者ナランヤ、抗毎ニ其戍ニ告テ曰、久彼ハ專
ラ徳ヲナシ、我ハ專ラ暴ヲナス、是戰ハスシテ自服
スルナリ、各分界ヲ保シノミ、細利ヲ求ムルヲ無レ、
孫皓聞テ以テ抗ヲ詰ル、抗曰、久一郷一邑モ信義ナ
カルヘカラス、況ンヤ大國ヲヤ、臣此ノゴトクセザ
レハ、正ニ是彼ノ徳ヲ彰スナリ、枯ニ於テ傷ヒナキ
ナリ

第三章 愛物

○孟子曰、久、君子ノ物ニ於ケル、之ヲ愛シテ仁セス、
民ニ於ル、之ヲ仁シテ親マス、親ヲ親ンテ民ニ仁シ、
民ニ仁シテ物ヲ愛ス、

○君故ナケレハ牛ヲ殺サス、大夫故ナケレハ羊ヲ
殺サス、士故ナケレハ犬豕ヲ殺サス、君子庖厨ヲ遠
ク、凡ソ血氣アルノ類、自ラ殺サ、ルナリ、礼記

○孟孫獵シテ麇ヲ得、秦西巴ヲメ持シテ歸ラシム、
母鹿隨テ鳴ク、秦西巴忍ヒス、縦シテ之ヲ與フ、孟孫
怒リ、秦西巴ヲ逐ス、居ルヲ一年、召テ以テ其子ノ傳

トス左右曰久秦西巴ハ君ニ罪アリ、今以テ郎君ノ
傳トスルハ何ソヤ、蓋孫曰久一魔ヲ以テ忍ヒス、又
將タ吾子ニ忍ヒンヤ、

○晋毛寶萬人ヲ以テ邾城ヲ守ル、石虎一萬騎ヲ遣
シ之ヲ攻ム、城陷ル、寶等圍ヲ突テ出テ、江ニ赴キ死
スルモノ六千人、初寶武昌ニ在リ、軍人市ニ於テ、白
龜、長サ四五寸ナルヲ買得テ之ヲ養フアリ、漸ク大
ニシテ、之ヲ江中ニ放シ、邾城ノ敗、龜ヲ養フ人、鎧ヲ
被リ刀ヲ持シ、自ラ水中ニ投ス、一石上ニ墮ツト覺
ルカ如シ、之ヲ視レハ、乃先ニ養フ所ノ白龜、長サ五

六尺、送テ東岸ニ至ル、遂ニ免ルヲ得タリ、

○蘇東坡云ク、余少シテ殺生ヲ喜ハス、然レモ性、蟹
蛤ヲ嗜ム、故ニ殺ヲ免レズ、去年罪ヲ得、獄ニ下リシ
ヨリ、始テ免レサルヲ意ス、既ニ脱ルヲ得テ、此ヨ
リマタ一物ヲ殺サス、蟹蛤ヲ餉ルモノ有レハ、之ヲ
江中ニ放シ、活理ナシト雖モ、猶萬一ヲ庶幾スモシ
活セサラシムルモ、亦煎烹スルニ愈レリ、求覲スル
所アルニ非ス、但親ク患難ヲヘテ、雞鴨ノ庖厨ニ在
ルニ異ナラス、口腹ノ故ヲ以テ、有生ノ物ヲシテ無
量怖苦ヲ受ケ使メサルノミ、

○曹彬、宋朝ノ名将ナリ、勲業ノ盛ナル、與ニ比ヲ
スルコナシ、嘗曰ク、吾將タリシヨリ、人ヲ殺スコト多
シ、然レ未嘗私ノ喜怒ヲ以テ、輒ク一人ヲ戮セス、其
居ル所、堂屋弊壞、子弟修葺ヲ加ント請フ、彬曰ク、時
方ニ大冬、牆壁瓦石ノ間、百虫蟄スルトコロ、其生ヲ
傷フヘカラス、其仁心物ヲ愛スル、蓋此ノ如シ、

第四章 夢日

○周公曰ク、嗚呼、君子ハ其逸スルコト無ク所トス、
遑アリトシテ、今日ノ耽樂スト曰フコト無ク、乃民
ノ訓トル所ニ非ス、天ノ若ク所ニ非ス、

皇ハ
トキニテモ可

○孔子川上ニ在テ曰ク、逝者ハ斯ノ若キカク、晝夜
ヲ舍テス、

○子夏曰ク、日其亡トコロヲ知り、月ニ其能スル所ヲ
忘ル、コナキ、學ヲ好ムト謂フヘキノミ、

○楊子曰ク、父母ニ事ヘテ、自足ラサルコトヲ知モノ
ハ、其辭カ得テ久スヘカラサルモ、ハ、親ニ事ルノ
謂ナリ、孝子ハ日月ヲ愛ム、

○謂フ勿レ、今日學ハスモ、来日アリト、謂フコト勿レ、
今年學ハスモ、来年アリト、日月逝ヌ、歳我ト延ヒス、
嗚呼、老ヌ是誰ノ愆ソ、朱元晦

○今日一事ヲ記シ、明日一事ヲ記シ、久シケレハ則
自然ニ貫穿ス、今日一理ヲ辨ヘ、明日一理ヲ辨ヘ、久
ケレハ、則自然ニ浹洽ス、今日一難事ヲ行ヒ、明日一
難事ヲ行ヒ、久ケレハ、則自然ニ堅固ナリ、渙然トシ
テ氷釋ケ、怡然トシテ理順フ、久シテ之ヲ自得ス、偶
然ニ非ルナリ、呂氏童蒙訓

○人少壯ノ時ニ方テ、惜陰ヲ知ラス、知ト雖太惜ニ
至ラス、四十已後ヲ過テ、始テ惜陰ヲ知ル、既知ルノ
時、精力漸ク耗ス、故人學ヲスル時ニ及ヒ、立志勉勵
ヲ要スヘシ、然ラサレハ、則百悔モ亦竟ニ益ナシ、言志錄

○管得巷、歲暮ニ、林羅山ニ謂テ曰、久余未通鑑綱目
ヲ讀マス、請先生、明春ヲ以テ、余カ為ニ之ヲ講セヨ、
羅山曰、久子心誠ニ之ヲ求メハ、何ソ来年ヲ待ン、即
除日ヲ以テ講ヲ起ス、

小川泰山少フシテ、謁ヲ山本、北山ニ執シヨリ、烈風
大雨ト雖、未嘗師家ノ闕ヲ蹈マス、ンハアラス、曾大
ニ雪フル、巨笠ヲ戴キ之ニ赴久、途未半ニ至ラス、雪
積リ笠重久カ之ニ勝ル能ハス、顛蹶シテ大ニ膝ヲ
傷ス、人憇テ之ヲ扶ケ、勸メテ家ニ歸ラシムレ、氏肯
セス、遂ニ師ノ許ニ至リ、痛ヲ忍ビ業ヲ受ル、丁常ノ

如シ比隣傳ヘテ美談トス

第五章

養生

○朝夕飲食ノ奉養ヲ輕クシ身ヲ勞動スベシ奢リテ酒食ノ美ヲ好ミ懈リテ身ヲ安逸ニス可ラス此
トシテ怠ラサレハ第一徳ヲ養ヒ次ニ身ヲ養ヒ次ニ財ヲ養フ三ツノ益アリ貝原益軒

○酒ハ穀氣ノ精ナリ微飲以テ生ヲ養フヘン過飲スレハ狂酗ニ至ル是藥ニ因リ病ヲ發ス人蓂附子巴豆大黃ノ類ノ如キ多ク之ヲ服スレハ必瞑眩ヲ致ス飲酒發狂モ亦此ノ猶シ言志錄

勤ノ反ヲ惰トス儉ノ反ヲ奢トス余思フ酒能ク人ニ情ヲ生セ使メ又人ニ奢ヲ長セ使ム勤儉以テ家ヲ興ス可ケレハ則情奢以テ家ヲ亡スニ足ル蓋酒コレカ媒ヲナスナリ同上

○善ク身ヲ養フモノハ常ニ病ヲ病ナキニ治ム善ク心ヲ養フモノハ常ニ欲ヲ欲ナキニ去ル言志錄身勞スレハ則心逸ス身逸スレハ則心勞ス勞逸竟ニ相離異セス同上

○孔子曰ク君子ハ敬セサルヲナシ身ヲ敬スルヲ大ナリトス身ハ親ノ枝ナリ敬セサランヤ其身

ヲ敬スルヲ能ハスンハ、是其親ヲ傷フ、其親ヲ傷ヘハ、是其本ヲ傷フ、其本ヲ傷ヘハ、枝従テ亡フ、家語

○孔子曰ク、父母ハ惟其疾ヲコレ憂フ、

○養生ノ術ハ、先ツ吾身ヲ害フ物ヲ去ルヘシ、身ヲ害フ物ハ内慾ト外邪ナリ、内慾ハ飲食、好色、睡眠、言語ノ慾ト、喜怒、憂思、悲恐、驚ノ七情ノ慾ヲ云、外邪トハ、天ノ四氣ナリ、風寒暑濕ヲ云、内慾ヲ忍ビ、外邪ヲ防キ、元氣ヲ害ハサレハ、病ナクシテ、天年ヲ永ク保ツヘシ、養生訓

人ノ命ハ我ニアリ、天ニアラスト、老子云ヘリ、人ノ

命ハ、固ヨリ天ニ受ケタレ、凡養生スレハ長シ、養生セサレハ短シ、身強ク、長命ニ生レ付タル人モ、養生ノ術ナケレハ蚤世ス、虚弱ニシテ、短命ナルヘキ人モ、保養善ケレハ命長シ、是皆人ノ所為ナレハ、天ニアラスト云ヘリ、譬ヘハ火ヲ爐中ニ埋ミ置ケハ、久ク滅エス、風吹所ニ露シ置ケハ、忽キユルカ如シ、同上

○華佗曰ク、人體ハ勞動ヲ得ンヲ欲ス、但極シムヘカラサルノミ、動揺スレハ則穀氣銷スルヲ得テ、血脉流通シ、病生スルヲ能ハス、譬ヘハ、戸樞ノ終朽サルカ猶キナリ、古ノ仙者導引ノ事ヲ為シ、熊經

鳩顧シテ腰體ヲ引挽シ、諸關節ヲ動カシ、以テ老
難キヲ求ム、

第六章

治生

○財ヲ生スニ大道アリ、之ヲ生スモノ衆久之ヲ食
ムモノ寡久、之ヲ為ルモノ疾久、之ヲ用ルモノ舒ナ
レハ、則財恒ニ足ル大學

仁者ハ財ヲ以テ身ヲ發シ、不仁者ハ身ヲ以テ財ヲ
發ス同上

○財ヲ運スル道アリ、人ヲ欺カサルニ在リ、人ヲ欺
カサルハ、自欺カサルニ在リ、言志後錄

信ヲ人ニ取レハ、則財足ラサルヲナシ、同上

財ハ天下公共ノ物、其自私スルヲ得ヘケンヤ、尤
モ當ニ之ヲ敬重スヘシ、濫費スルヲ勿レ、濫用スル
ヲ勿レ、之ヲ愛重スルハ可ナリ、之ヲ愛惜スルハ不
可ナリ、同上

○范蠡輕寶珠玉ヲ装シテ、私従ト舟ニ江湖ニ乗シ
海ニ浮ミ齊ニ出テ、父子産ヲ治ム、數千萬ニ至ル齊
人其賢ヲ聞キ、以テ相トス、蠡嘆シテ曰ク、家ニ居テ
ハ千金ヲ致シ、官ニ居テハ卿相ヲ致ス、此布衣ノ極
ナリ、久ク尊名ヲ受ルハ、不祥ナリト、乃相ノ印ヲ歸

シ盡ク其財ヲ散シ、重寶ヲ懷テ間行シ、陶ニ止ル、
陶朱公ト謂フ、賞鉅萬ヲ累ヌ、魯人、犢頰往テ術ヲ聞
フ、蠡曰ク、五特ヲ畜ヨト、乃大ニ牛羊ヲ犢氏ニ畜フ、
十年ノ間、貲王公ニ擬ス、

○宋人善ク不龜手ノ藥ヲ為タルモノアリ、世々泝
泝続トテ水中ニテ、絮ヲ擊洗ヲ以テ事トスル者アリ、
或コレヲ聞キ、其方ヲ百金ニ買ント請フ、宋人族
ヲ聚メテ謀テ曰ク、我世々泝泝続ヲナセトモ得ル
所僅ニ數金ニ過キス、今一朝ニシテ方ヲ百金ニ鬻
ク、請フコレニ與ヘン、其人コレヲ得テ以テ吳王ニ

説ク、適越ノ難アリ、吳王コレヲシテ將タラシム、冬、
越人ト水戰シ、大ニ越人ヲ敗ル、此功ヲ以テ、吳王地
ヲ裂テコレヲ封ス、能ク手ニ龜セサルハ一ナリ、或
ハ以テ封セラレ、或ハ泝泝続ニ免レス、此ソノ見ル
所ノ小大異ナレハナリ、

第七章

五身

○孟子曰ク、古ノ人、志ヲ得レハ澤民ニ加リ、志ヲ得
サレハ身ヲ修メテ世ニ見ル、窮スレハ則獨リ其身
ヲ善クシ達スレハ則兼テ天下ヲ善ス、
○吾人自重ヲ知ルヘシ、我性天爵、最當ニ貴重スヘ

シ、我身ハ父母ノ遺體、重ンセサルヘカラス、威儀ハ人ノ觀望スル所、言語ハ人ノ信ヲ取ル所、亦自重セサルヲ得ンヤ、言志後錄

○信ヲ人ニ取ル難キナリ、人口ヲ信セスシテ、躬ヲ信ス、躬ヲ信セスシテ、心ヲ信ス、是ヲ以テ難シ、言志錄
臨時ノ信、功ヲ平日ニ累ヌ、平日ノ信ハ、效ヲ臨時ニ收ム、信上下ニ孚スル、天下甚處シ難キ事ナシ、同上
畜フヲ厚クム、發スル遠シ、誠ノ物ヲ動ス、慎獨ヨリ始ル、獨處能慎ム、接物ノ時ニ於テ、太々意ヲ着ケス
ト雖、而モ人自容ヲ改メ、敬ヲ起ス、獨處慎ム能ハサル、接

物ノ時ニ於テ、意ヲ着ケ、恪謹スト雖、而モ人亦敢容ヲ改メ、敬ヲ起サス、誠ノ畜不畜、其感應ノ速ナル已ニ此ノ如シ、同上

○諸葛孔明漢末ニ當リ、躬南陽ニ耕シ、聞達ヲ求メ、後來劉先主ノ聘迎ニ應シ、山河ヲ宰割シ、天下ヲ三分シ、身將相ヲスヘ、手重兵ヲ握ル、亦何ヲ求メテ得サラン、何ヲ欲シテ遂ケサラン、乃後主ト言ヌ、成都ニ桑八百株、薄田十五頃アリ、子孫ノ衣食自ラ餘饒アリ、臣カ身外ニ在テ、別ニ調度ナク、別ニ生ヲ治メテ、尺寸ヲ長セス、苟モ私利ヲ謀リ、死スルノ日、廉

二餘粟アリ、庫ニ餘則アラシメテ陛下ニ負カスト、
卒ニ及ンテ果シテ其言ノ如シ、此ノ如キ輩ノ人、真
ニ大丈夫ト謂フヘシ、

弟八章 子貢

○子曰ク、弟子入テハ孝出テハ則弟、謹テ而メ信、行
テ餘カアレハ、則以テ文ヲ學ス、
○子曰ク、學テ思ハサレハ、則罔久思テ學ハサレハ、
則殆シ、

○子路問「有テ未之ヲ能行ハサレハ、唯聞「有ン

○汎ウ衆ヲ愛
シテ而ヒテ仁
期シキレ

「ヲ恐ル、

○子夏曰ク、博ク學テ篤ク志シ切ニ問テ近ク思フ、
仁其中ニ在リ、

○學問ノ道他ナシ、其放心ヲ求ムルノミ、孟子

○流水ノ物タルヤ、科ニ盈タサレハ行カス、君子ノ

道ニ志スヤ、章ヲ成サレハ達セス、同上、

○木繩ヲ受レハ則直シ、金礪ニ就ケハ則利ナリ、君

子博學ニシテ日ニ已ヲ參省スレハ、則知明ニシテ

行ヒ過チナシ、荀子

○學惡シカ始リ、惡シカ終ル、曰、其數ハ則經ヲ誦ス

ルニ始リ、禮ヲ讀ムニ終ル、其義ハ則士タルニ始リ、
聖人タルニ終ル、真積リ、カメ久シケレハ則入ル學
没スルニ至テ而後止ムナリ、同上

○童稚ノ學ハ、記誦ニ止マラス、其良知良能ヲ養ヒ、
當ニ先入ノ言ヲ主トスヘシ、楊氏家訓

○川井東村、年五十二垂トシテ始テ學ニ志シ、業ヲ
山崎闇齋ニ受ク、東村闇齋ヨリ長スルヲ十四歲、闇
齋曰ク、道ニ入ルハ敬ニ如クハナシ、當ニ持敬ヲ先
ニスヘシ、子不幸時ヲ過ク、讀書ヲ必トセス、實踐ヲ
專ニスヘシ、我只子ニ説與セハ、則毎事體究スヘシ

齊々齋

東村之從ヒ、カヲ持敬ノ説ニ專ニシ、敢少ク懈ラス、
其餘聞ク所皆服膺シテ失フヲナシ、闇齋其篤志ヲ
稱ス、

○細井平洲、幼フシテ好テ書ヲ讀ム、誦讀既ニ遍シ、
歲十七、京師ニ遊學センヲ請フ、單身之ニ趣キ、伊
勢ノ人北畠世規ト同舍僑居シ、垢衣、弊帶、糲ヲ食ヒ
蔬ヲ嚙ミ、務テ費用ヲ儉ス、是ヨリ先父正長之カタ
メニ金五十兩ヲ與ヘ、其ニ適セシム、京ニ在ルヲ一
年、十兩ヲ費散シ、其餘ヲ以テ書數百卷ヲ購得テ歸
期ニ及ヒ、兩馬ニ駄シテ還ル、郷里皆以テ之ヲ美談

下甲

トス

○中江藤樹幼シテ祖ニ從テ、伊豫大洲ニ在リ、一日、大學天子ヨリ庶人ニ至マテ、壹是皆身ヲ修ルヲ以テ本トスルヲ讀ミ、大ニ嘆悟シテ曰ク、幸ニ此經ノ今ニ存スルヤ、聖人豈學而至ル可ラサランヤ、後ニ京師ノ僧來テ論語ヲ講ス、是時ニ當テ、大洲ノ俗、惟武弁是競ヒ、敢從ヒ學フモノナシ、獨藤樹日夕往テ聽ク、僧居ル僅月餘ニシテ去ル、因テ四書大全ヲ得テ之ヲ讀ム、而シテ往々僚友ノ為ニ毀謗セラル、是ニ於テ晝ハ則深ク之ヲ藏シ、夜ニ至テ始テ卷ヲ開

久

○唐ノ陽城國子司業トナリ、諸生ヲ引テ、之ニ告テ曰ク、凡ソ學ハ、忠ト孝トヲスルヲ學フ所以ナリ、諸生久ク親ヲ省ミサル者アリヤ、明日、城ニ謁テ、還養フモノ二十輩、三年歸侍セサルモノアリ、之ヲ斥ク○呂正獻、少ヨリ學ヲ講シ、心ヲ治メ、性ヲ養フヲ以テ本トス、嗜慾ヲ寡フシ、滋味ヲ薄フシ、疾言遽色ナク、窘步ナク、情容ナク、凡嬉笑俚近ノ語、未嘗口ヨリ出サス、世利紛華、聲伎遊宴ヨリ、博奕奇玩ニ至ルヲ、淡然トシテ好ム所ナシ、

○徐節孝學者ヲ訓ヘテ曰久諸君君子トナラシム
欲シテ已カカヲ勞シ已カ財ヲ費サシム此ノ如ク
ニシテ君子トナラサルハ猶可ナリ已カカヲ勞セ
ス已カ財ヲ費サス諸君何ソ君子トナラサル郷人
之ヲ賤ミ父母之ヲ惡ム此ノ如クニシテ君子トナ
ラサルハ猶可ナリ父母之ヲ欲シ郷人之ヲ榮トス
諸君何ソ君子トナラサル

○范純仁子弟ヲ教ヘテ曰久六經聖人ノ事ナリ一
字ヲ知レハ則一字ヲ行ヒ要造次顛沛必是ニ於テ
スヘシ則謂フ所ノ為ルヲアルモハ亦是ノ如キ

第九章

祖疏

○孟子曰久民ノ事ハ緩スヘカラサルナリ詩ニ云
久晝ハ爾于テ某カレ宵ハ爾索ヲ綯ヘ亟ニ其屋ニ
乘レ其始テ百穀ヲ播シ民ノ道タルヤ恒ノ産アル
モノハ恒ノ心アリ恒ノ産ナキモノハ恒ノ心ナシ
苟モ恒ノ心ナケレハ放辟邪侈セサルヲナキノミ
罪ニ陷ルニ及テ然後從テ之ヲ刑ス是民ヲ罔スル
ナリ焉ソ仁人位ニ在ルアリテ民ヲ罔スルヲス
ヘケンヤ是故ニ賢君ハ必恭儉ニシテ下ニ礼シ民

ニ取ルヲ制アリ、

○君ハ令ヲ出ス者ナリ、臣ハ君ノ令ヲ行テ之ヲ民ニ致スモノナリ、民ハ粟米麻絲ヲ出シ、器皿ヲ作り、貨財ヲ通シテ、以テ其上ニ事ルモノナリ、君令ヲ出サ、レハ、則其君タル所以ヲ失フ、臣君ノ令ヲ行テ之ヲ民ニ致サ、レハ、則其臣タル所以ヲ失フ、民、粟米麻絲ヲ出シ、器皿ヲ作り、貨財ヲ通シテ、以テ其上ニ事ヘサレハ、則誅セララル、韓退之

○柳子厚、薛存義ヲ送ル序ニ云ク、凡ソ土ニ吏タルモノ、若チソノ職ヲシルカ、蓋シ民ニ役セラレ、民

役アルノミニ非サルナリ、凡ソ民ノ土ニ食ムモノ、其十ノ一ヲ出シテ吏ヲ傭ヒ、平ヲ我ニ司カサトラシムルナリ、

○孝子正助カ、品行篤實ナルヲ、國中ニ著シケレハ、藩主黒田氏ヨリ、米錢ヲ與ヘテ、賞セラル、一、前後數回ニ及ヘリ、享保十四年ニ至テ、又正助、行實至詳、上書スヘシト命セラレシカハ、郡宰ヨリ里胥ニ下シテ、具ニ言上セシメタリ、藩主大ニ感嘉シ、正助ヲ城中ニ召シ、厚ク褒詞ヲ加ヘ、其由三段ハ畝ノ租税課役、コトクク除免スヘシト命セラル、正助以為

久租稅課役ナクシテ、田地ヲ作り取ニセシ事誠ニ
恐縮ニ勝ヘス、定額ノ稅役ヲ奉ラントシキリニ懸
望スレハ、其厚志ヲ取上サルモ、不可ナリト、少シノ
貢稅ヲ納メシメラル、又嘗盜アリ、一苞米ヲ擔フテ
去ル、正助之ヲ蹤スレハ、則村人ナリ、明日、一苞米ヲ
人ニ借り、負フテ其家ニ至リ、曰久、子昨宵、負歸ノ米
ハ、我租稅ナリ、請換ルニ此苞ヲ以テセン、其人罵テ
曰久、吾盜マス、正助曰久、大ニ聲スルヲナカレト、四
鄰之ヲ聞キ、驚キ集テ其家ヲ檢シ、竊ム所ノ苞ヲ出
シ、盜ヲ縛シテ去ル、

第十章

偏常

○孟子曰久、規矩ハ、方員ノ至ナリ、聖人ハ、人倫ノ至
ナリ、君タラント欲セハ、君道ヲ盡セ、臣タラント欲
セハ、臣道ヲ盡セ、ニツ者、皆堯舜ニ法ランノミ、孔子
曰久、道ニツ、仁不仁トノミ、

○大鰯鵜尊ハ、譽田天皇ノ第四子ナリ、幼ニメ聰明
睿知、壯ニ及ンテ、仁寛慈惠ナリ、天皇大鰯鵜尊ニ、汝
等子ヲ愛スルヤト問給フ、尊曰久、甚愛スト、又長ト
少ト孰レカ甚キト問給フ、尊、天皇ノ色ヲ察シ、長者
ハ、多ク寒暑ヲ經テ、既ニ成人トナレハ、更ニ憂ナシ、

唯少者未タソノ成否ヲ知ラサレハ、甚之ヲ憐ムト
答ヘ給フ、天皇大ニ悦テ曰ク、汝ノ言、寔ニ朕カ心ニ
合ヘリト、是時、天皇、菟道稚郎子ヲ立テ太子ト為ル
情アリ、故ニ是問ヲ發シ給フ、乃チ菟道稚郎子ヲ立
テ嗣トス、幾クモ無シテ天皇崩ス、太子菟道稚郎子
位ヲ大鷦鷯ノ尊ニ讓リ、帝位ニ即カスシテ曰ク、宗
廟社稷ヲ奉スルハ重事ナリ、僕不才、以テ稱フニ足
ス、夫昆、上ニシテ、季下ニシテ、聖君ニシテ、愚臣ナルハ、
古今ノ常典ナリ、願ハ王疑フコト勿レ、宜ク帝位ニ即
クヘシ、大鷦鷯尊曰ク、我不賢ト雖モ、豈先帝ノ命ヲ

棄テ、輒ク弟王ノ願ニ從ンヤト、固辭シテ承ス、各ユ
レヲ相讓リ、皇位ヲ空クスルコト、既ニ三歳、太子曰ク、
我レ兄王ノ志ヲ、奪フヘカラサルヲ知ル、豈久ク生
キテ、天下ヲ煩サンヤト、乃自盡シテ死ス、大鷦鷯尊、
胸ヲウチテ、大ニ號哭シテ、為ン所ヲ知ラス、曰ク、若
シ死者シルコアラハ、先帝我ヲ何トカ謂ントノ給
ヘリ、夫レ大鷦鷯尊、稚郎子ト、其父子兄弟ノ間ニ於
ケル、至テ深厚ナリト謂フヘシ、

○有馬頼永、其藩士井上彌左衛門カ槍術ヲ觀テ、賞
嘆殊ニ甚シ、一老臣、其從來ノ寶藏院流ヲ棄テ、彼カ

自得流ヲ學シコヲ勸ム、賴永曰ク、今自得流盛ニ行
ハレ、家嚴以來傳習ハ、寶藏院流漸ク衰ントスルニ
似タリ、而ルニ吾改テ彼ヲ學ハ、弥々衰微ニ至
ラニ、吾ハ今マテ現行スル諸術各其蘊奧ヲ究メ、所
長ヲ逞シテ、並立シコヲ願ヘハ、改流ハスマシト、其
儘ニ過セリ、

○曾子ムヲ耘ル、誤テ其根ヲ斬ル、曾皙怒リ、大杖ヲ
建、以テ其背ヲ撃ツ、曾子地ニ仆レテ、人ヲ知ラサル
コト久シ、頃アリチ乃蘇ス、欣然トシテ起リ、曾皙ニ進
テ曰ク、嚮ニ參罪ヲ大人ニ得、大人カヲ用中、參ヲ教

フ、疾ナキコヲ得ニヤ、退テ房ニ就キ、琴ヲ愛テ歌フ、

曾皙ヲシテ之ヲ聞キ、其體ノ康キヲ知ラシメント
欲シテナリ、孔子之ヲ聞キ、門弟子ニ告テ曰ク、參來
ラハ内ルコト勿レ、曾參自以テ罪ナシトス、人ヲシテ
孔子ニ請シム、子曰ク、汝聞スヤ、昔曾叟子アリ、舜ト
曰フ、曾叟之ヲ使ント欲スレハ、舜未嘗側ニ在ラス
ンハアラス、索テ之ヲ殺セハ、未嘗得ヘカラス、小槌
ハ則過ヲ待チ、大杖ハ則逃走ス、故ニ曾叟不父ノ罪
ヲ犯サスシテ、舜烝々ノ孝ヲ失ハス、今參父ニ事ヘ
身ヲ委テ以テ暴怒ヲ待チ、殪レテ避ケス、既ニ身死

修身初訓卷之八
シテ父ヲ不義ニ陷ル、其不孝孰レカコレヨリ大ナ
ラン、汝天子ノ民ニ非スヤ、天子ノ民ヲ殺ス、其罪何
如、曾参之ヲ聞テ曰久参カ罪大ナリ、遂ニ孔子ニ造
リテ、過ヲ謝ス、

明治二十一年二月調査

代價

修身初訓卷之八

明治十五年三月廿四日版權免許
同年五月刻成

編輯人 福岡縣士族 宮本茂任

同 縣士族 宗盛年

同縣同區地行八津町
二千五十番地

出版所 連壁製本會社

同縣同區下名島町
十五番地